

NEWS LETTER

2021年 6月 29日
一般財団法人岩手経済研究所

岩手県内新入社員の職業観と生活観について

—2021年新入社員意識調査より—

一般財団法人岩手経済研究所（理事長：高橋 真裕）は、定例の「2021年新入社員意識調査（アンケート）」を実施しました。

本調査の概要は以下のとおりです。

就職活動を振り返った感想は ～厳しさがやや上昇

※ 前年調査比2.3ポイント上昇

「それほど厳しくなかった」と「楽だった」が66%

※ 前年調査比1.9ポイント低下

本調査の内容は、別紙「岩手県内新入社員の職業観と生活観 —2021年新入社員意識調査—」のとおりです。また、詳しくは6月30日発行の当研究所機関誌「岩手経済研究 2021年7月号（No. 464）」にも掲載いたします。

2021年6月29日

岩手県内新入社員の職業観と生活観 —2021年新入社員意識調査より—

標記について概要を取りまとめたので公表いたします。なお、詳細は機関誌「岩手経済研究」2021年7月号に掲載予定です。

<調査要領>

1. 調査時期 2021年3~4月
2. 調査対象 岩手県内事業所に勤務（予定含む）する新入社員等
3. 調査方法 当研究所主催の新入社員研修会等における無記名アンケート方式
4. 回答者数 合計294
(男性165、女性129)

盛岡市中ノ橋通一丁目2番16号
一般財団法人 岩手経済研究所
理事長 高橋真裕
経営相談部（担当 岩渕）
TEL 019-622-1212

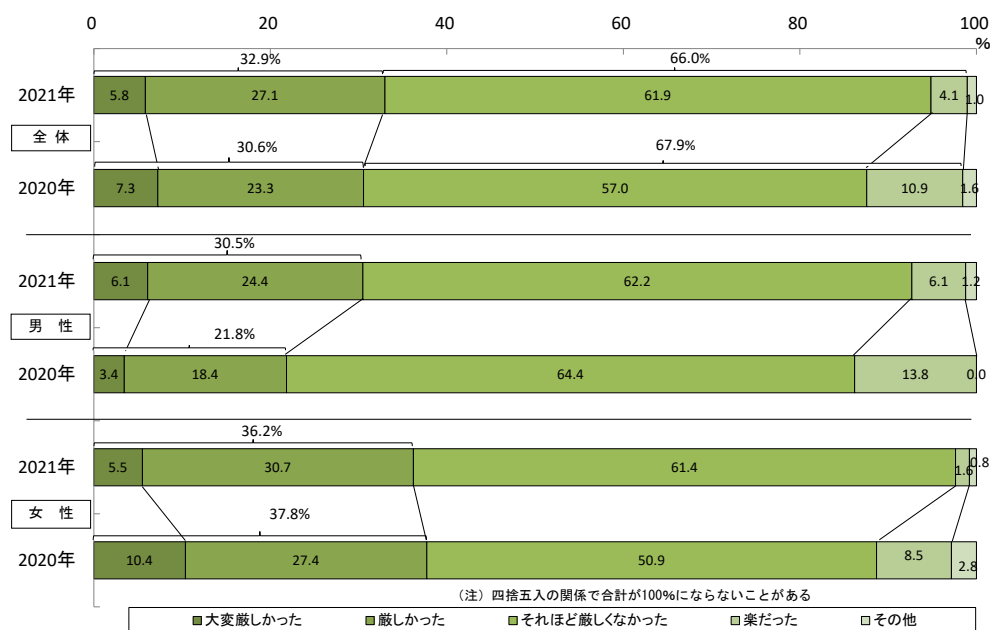
＜調査結果の要約＞

＜就職活動を振り返った感想は？＞

○就活の感想は厳しさがやや上昇

就職活動を振り返った感想は「それほど厳しくなかった」と「楽だった」との回答の合計は全体で66.0%（前年比1.9ポイント減）と低下し、「大変厳しかった」と「厳しかった」（以下「厳しい」）の回答の合計が32.9%（同2.3ポイント増）とやや上昇した。「厳しい」の割合をみると、男性は30.5%（同8.7ポイント増）、女性は36.2%（同1.6ポイント減）で、厳しさは男性が強まっている。

就職活動を振り返った感想

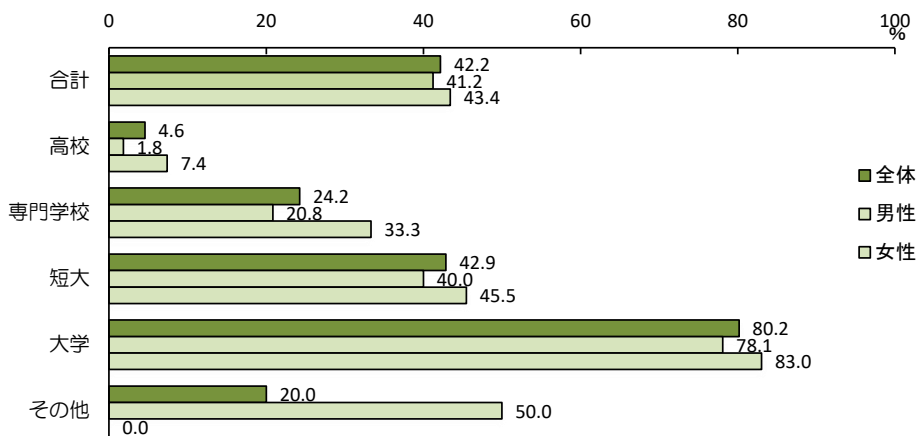


＜オンラインによる就職活動状況＞

○全体では4割強だが大卒は8割が利用

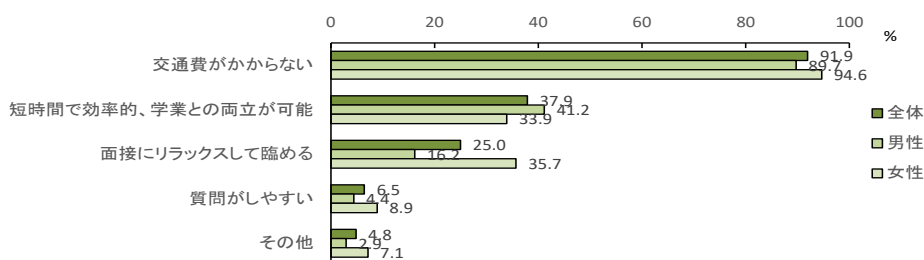
オンラインによる就職活動を「行った」が全体では42.2%となった。学歴別では、大卒が80.2%と最も高く、次いで短大が42.9%で高卒生の利用者は少なかった。

オンラインによる就職活動状況

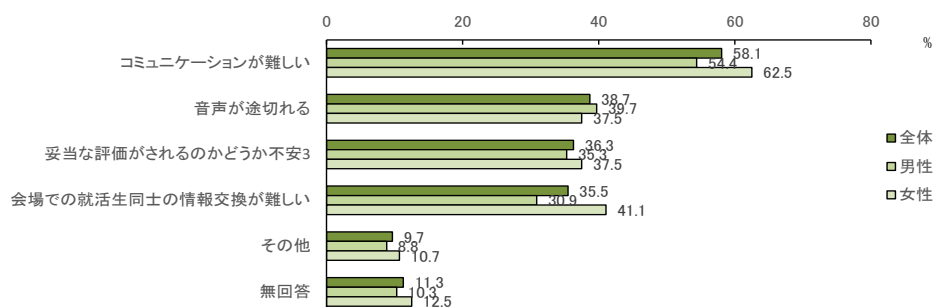


利用のメリットは「交通費がかからない」が91.9%と突出し、次いで「短時間で効率的、学業と両立が可能」で37.9%となった。デメリットは「コミュニケーションが難しい」が58.1%、「音声が届かない」38.7%などとなった。

オンラインのメリット



オンラインのデメリット

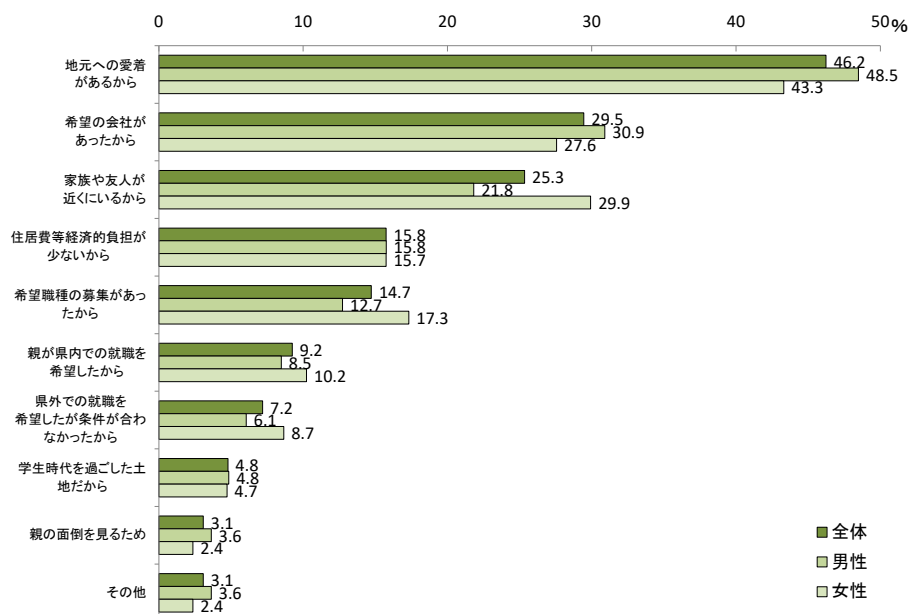


<就職先として県内企業を選んだ理由は？>

○「地元への愛着」や「希望の会社の存在」が決め手

就職先として県内企業を選択した理由は、「地元への愛着」が46.2% (同9.5%増)、「希望の会社の存在」29.5% (同12.7%増) などの順となった。男女別で前年と比べると、男性は「住居費等経済的負担が少ない」が6.9%低下し「希望の会社の存在」は11.6%上昇した。一方女性は「親が県内就職を希望した」が5.5%低下し、「地元への愛着」が15.5%、「希望の会社の存在」が12.8%、それぞれ上昇した。

就職先として県内企業を選んだ理由(2つ以内の複数回答)



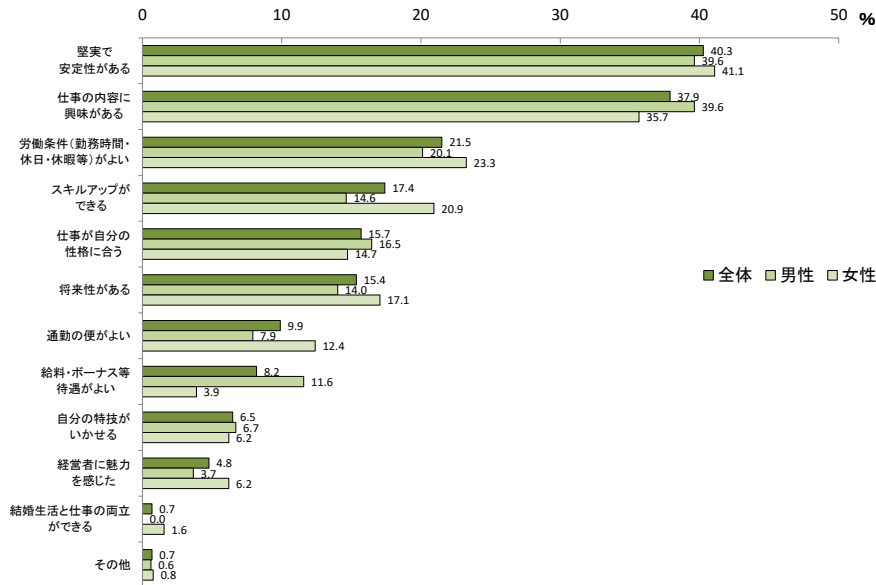
1. 職業観

<就職先選択の理由>

○「堅実性・安定性」「仕事内容への興味」の順

就職先を選んだ理由は「堅実で安定性がある」40.3%（同9.0ポイント増）、「仕事の内容に興味がある」37.9%（同2.0ポイント増）、「労働条件（勤務時間・休日・休暇等）がよい」21.5%（同8.8ポイント減）などの順となった。前年と比べ最も上昇した項目は、「将来性がある」が9.2ポイント増、次いで「堅実で安定性がある」が9.0ポイント増で、コロナ禍で経営の将来性や安定性を重視したとみられる。

今の就職先を選んだ理由（2つ以内の複数回答）

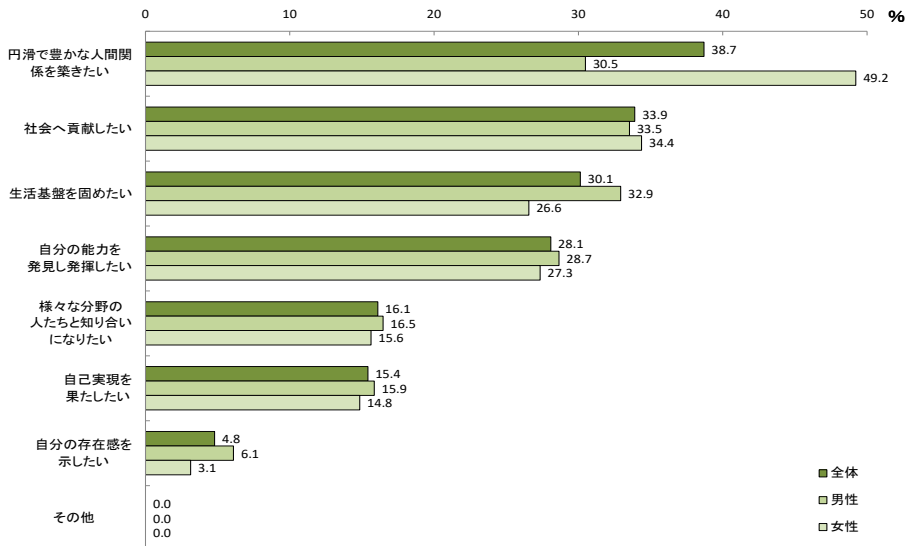


<社会人生活に期待すること>

○「豊かな人間関係」と「社会への貢献」

社会人生活に期待することは前年同様「円滑で豊かな人間関係を築きたい」が38.7%（前年比0.6ポイント減）と最も高く、次いで「社会へ貢献したい」33.9%（同6.9ポイント増）、「生活基盤を固めたい」30.1%（同2.0ポイント増）となった。前年と比べ「円滑で豊かな人間関係」では男性が低下した一方、女性は大幅に上昇し、「社会へ貢献したい」は男女ともに上昇した。

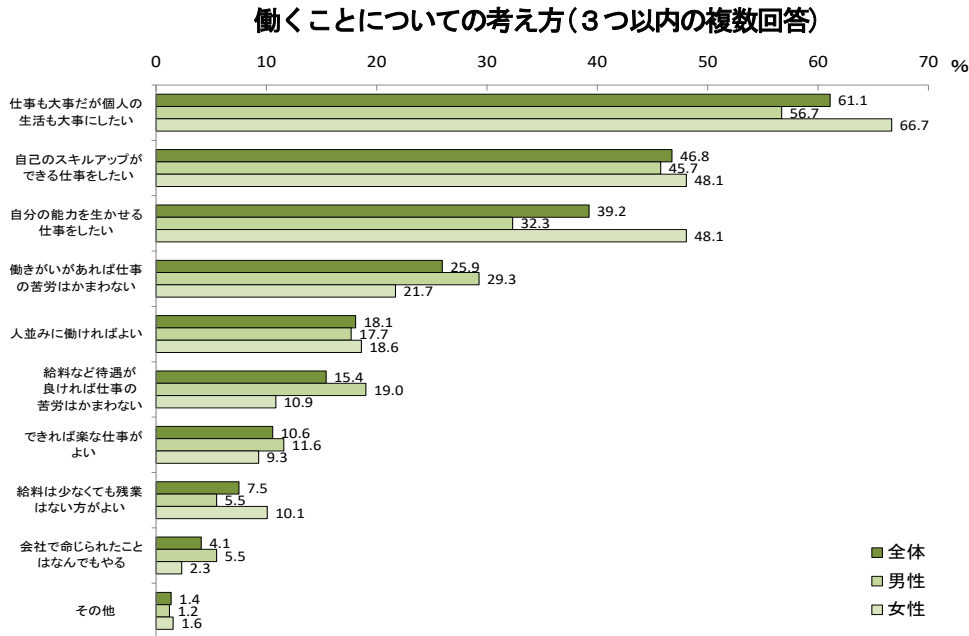
社会人生活に期待すること（2つ以内の複数回答）



<働くことについての考え方>

○「私生活とのバランス」と「スキルアップ可能な仕事」

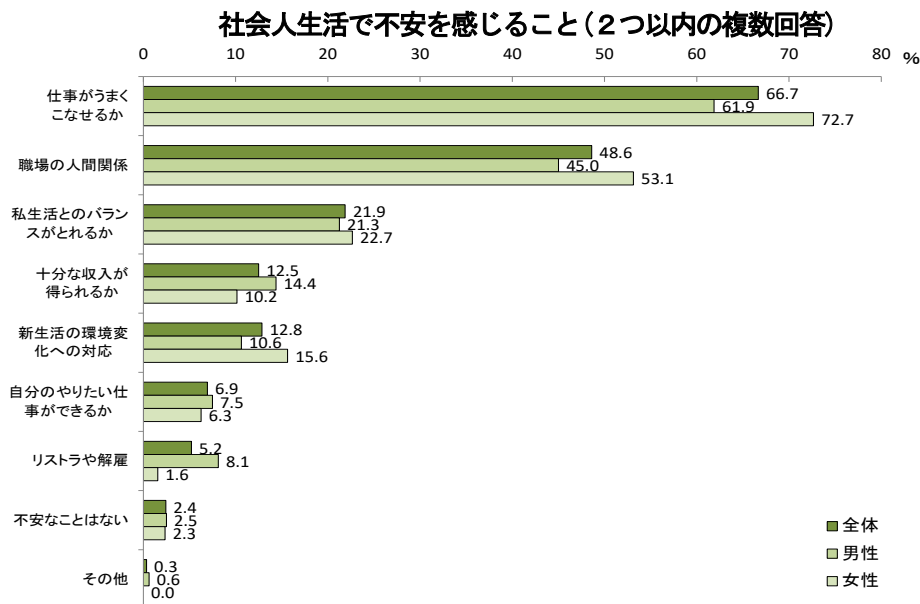
働くことについての考え方も、前年同様「仕事も大事だが個人の生活も大事にしたい」が61.1%（同5.0%増）と最も高く、次いで「自己のスキルアップができる仕事がしたい」46.8%（同5.5%増）、「自分の能力を生かせる仕事をしたい」が39.2%（同7.1%増）などの順となった。私生活も大事にする一方で、自己のスキルアップや自分の能力を生かせる仕事を希望する割合が上昇した。



<社会人生活で不安を感じること>

○「仕事がこなせるか」と「職場の人間関係」が上位

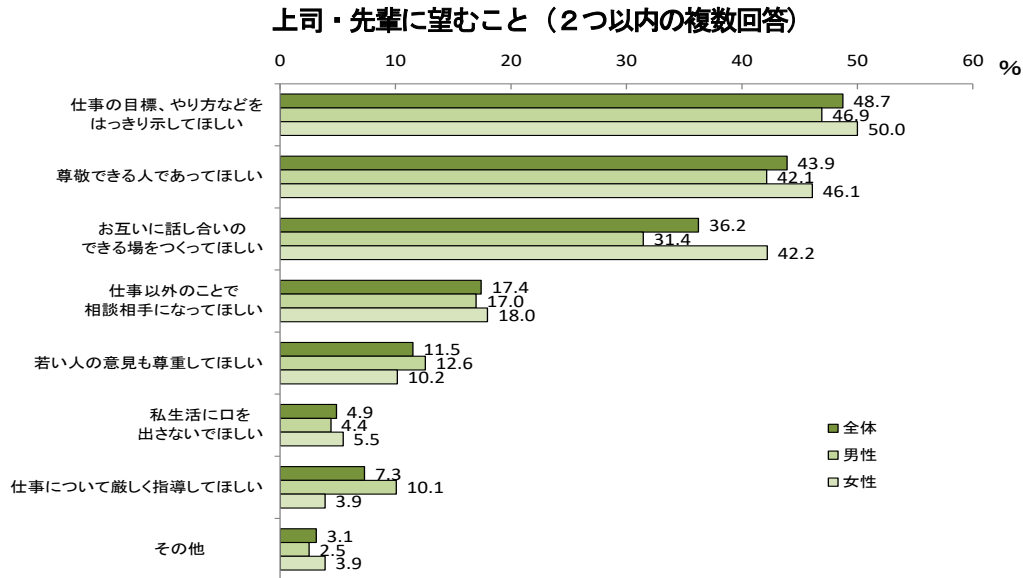
社会人生活で不安を感じることは、前年と同様「仕事がうまくこなせるか」が66.7%（同0.9%増）と最も高く、次いで「職場の人間関係」48.6%（同6.8%増）の2項目が突出している。前年と比べ「仕事がうまくこなせるか」は男性が0.6%低下した一方、女性が4.2%上昇して7割を超え、「職場の人間関係」については男女ともに上昇し、特に女性は5割を超えた。



<上司・先輩に望むこと>

○「仕事の明確な指示」と「尊敬できる人」を望む

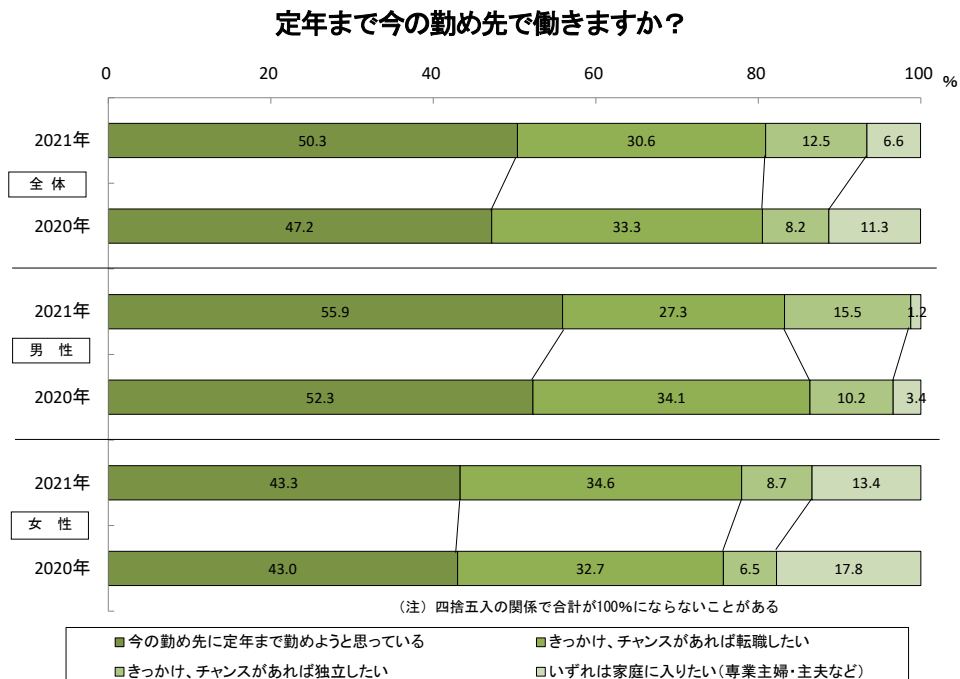
上司・先輩に望むことは「仕事の目標、やり方などを明示してほしい」48.7%(同3.1ポイント増)、「尊敬できる人であってほしい」43.9%(同0.8ポイント増)、「お互いに話し合いのできる場を作してほしい」36.2%(同5.9ポイント増)が上位を占めた。前項で上位の「仕事の不安」解消のため明確な指示を望み、「職場の人間関係の不安」に対し「尊敬できる人」や「互いに話し合いの場」を求める回答になったとみられる。



<定年まで今の勤め先で働くか>

○「今の勤め先で定年まで働きたい」が過半数

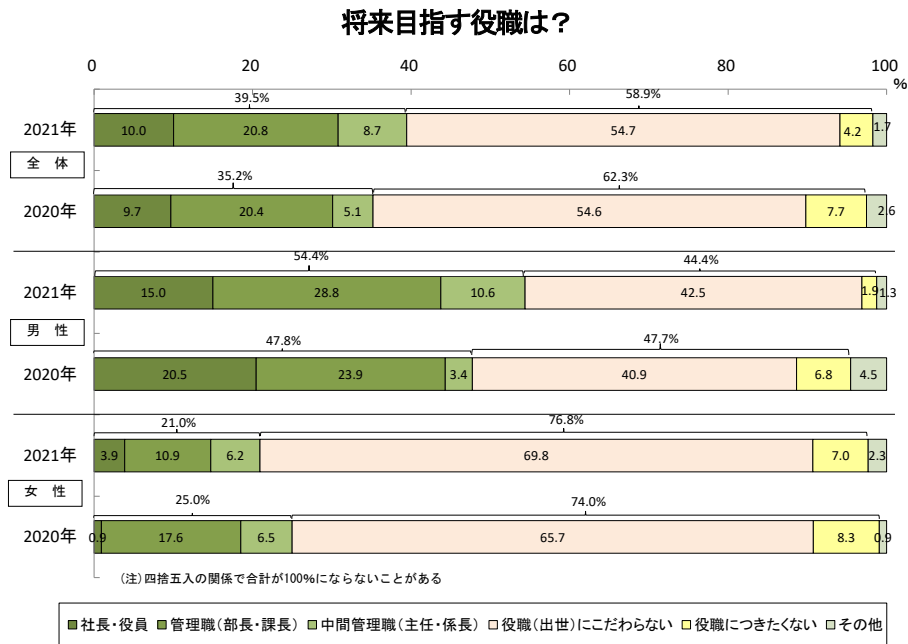
定年まで今の勤め先で働くかについては、「定年まで勤めようと思っている」が50.3%(同3.1ポイント増)と過半数となり、「きっかけ、チャンスがあれば転職したい」は30.6%(同2.7ポイント減)、「きっかけ、チャンスがあれば独立したい」は12.5%(同4.3ポイント増)となった。コロナ禍で安定している企業で働く希望が高まったほか、独立を目指す割合も増加した。



<将来目指す役職は？>

○男性はキャリア志向が高まる

全体では「主任・係長以上の管理職を目指す」割合が39.5%（同4.3ポイント増）と上昇し、「役職（出世）にこだわらない」と「役職につきたくない」を併せた役職（出世）に執着しない割合が58.9%（同3.4ポイント減）と低下した。男女別では、中間管理職以上を希望する割合は男性が上昇して5割を超えたが、女性では役職（出世）に執着しない割合が75%を超えた。

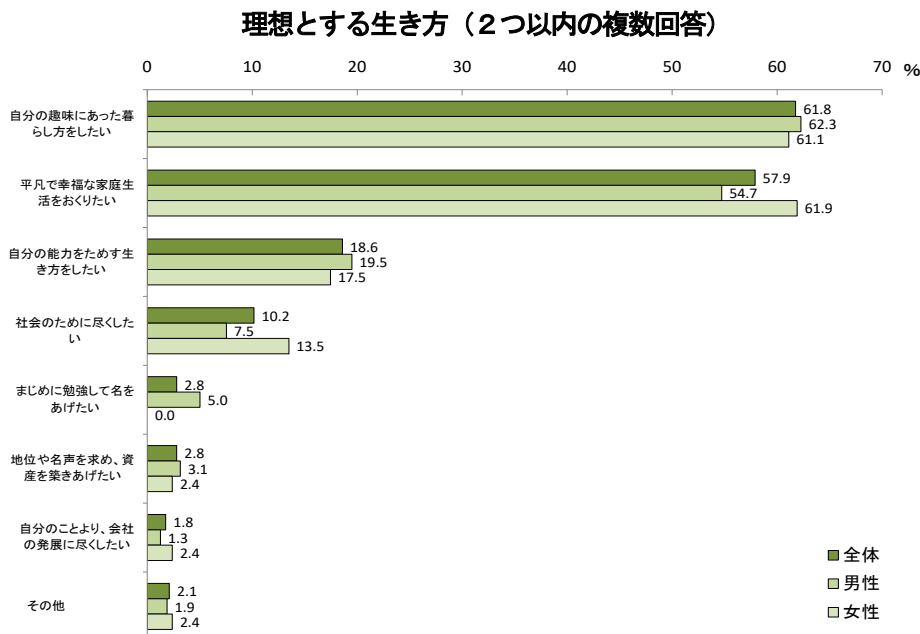


2. 生活観

<理想とする生き方>

○「趣味にあった暮らし方」「平凡で幸福な家庭」の順

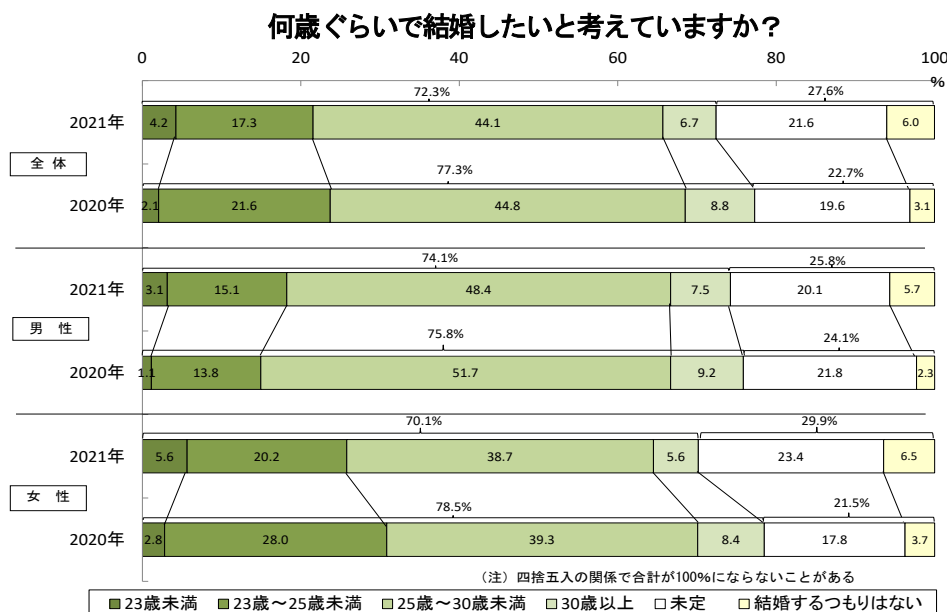
理想の生き方については、前年同様「自分の趣味にあった暮らし方をしたい」が61.8%（同0.6ポイント増）と「平凡で幸福な家庭生活を送りたい」の57.9%（同1.8ポイント増）の2項目が大宗を占めた。男女の差をみると、「自分の趣味にあった暮らし方をしたい」は男女差が小さいが、「平凡で幸福な家庭生活を送りたい」は女性が男性を7.2ポイント上回っている。



<結婚について>

○結婚希望は全体として男女とも低下

年齢にかかわらず結婚したいと考える割合は72.3%（同5.0ポイント減）と低下し、「未定」と「するつもりはない」を併せた割合が27.6%（同4.9ポイント増）と上昇した。結婚希望年齢については男女とも「23歳未満で結婚」が上昇したが、それ以外の希望年齢の割合が低下し、全体でも男女ともに結婚したい割合が低下した。



まとめ

調査結果をみると、コロナ禍で業況が悪化した企業での採用減など非製造業を中心に雇用を抑制する企業が出ており今年の就職活動は前年と比較し厳しさが増した。就職先として県内企業を選んだ決め手は「地元への愛着」や「希望の会社の存在」をあげた割合が上昇した。オンラインを利用した就職活動は大卒が高かったが高卒は1割に満たなかった。メリットは「交通費がかからない」が突出し、デメリットは「コミュニケーションが困難」や「音声が途切れる」などとなった。

また、今年の新入社員の職業観は、「社内で円滑な人間関係」を築き社会貢献したいと考え、「自己のスキルアップや能力を生かせる仕事」を希望し、男性ではキャリア志向の割合が高まったが、女性は役職（出世）を望まない職業観が強まっている。生活観では、前年同様「趣味にあった暮らし方」や「平凡で幸福な家庭」を望む意見が多く、結婚希望については全体として男女ともに低下した。

コロナ禍による離職の増加など雇用環境の悪化傾向もみられるが、労働力人口の減少で人手不足は今後も続くものと思われる。各企業では様々な不安を抱えながら入社した新入社員の不安を解消し、女性も含めた長期継続雇用を見据え、長期的視点から育成を図り今後の業績の向上と人材の維持・確保に繋がるような就業環境の一層の醸成が望まれる。

以上